

家庭学習の手引き

R4.9.5

～なぜ、家庭学習が必要なのか～

子供たちが生きていくこれからの社会は、現代以上に変化の激しい予測が困難な社会になると言われています。次代を生きる子供たちが、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくためには、社会に出た後も学び続け、問題を発見・解決する力を身に付けたり、新たに必要とされる知識や技能を自分から獲得したりしていくことが求められます。

そのため「生涯を通じて自己の向上に努める」基盤を作るためにも、**学校教育で「自らの学びをマネジメントする力」を育てる必要があります。**また、それは、学校での学習だけでなく、家庭学習でも培っていかねばならないものだと思います。

本校では昨年度末から、「家庭学習のあり方」について職員で話し合いを重ねてきました。私たちが考えている**家庭学習は「宿題+じぶん学習（自主学習）」**です。以下の資料をご覧ください。

【資料】家庭学習って何？

家庭学習＝「宿題+じぶん学習（自主学習）」

宿 題

教師が示した課題
に取り組む学習

+

じぶん学習①

（自主学習）

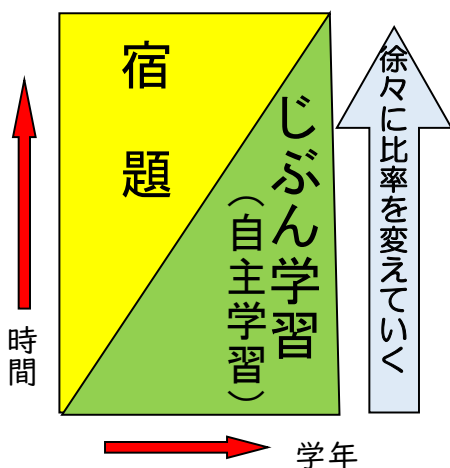
授業の復習や予習、
授業で学習したこと
の発展的な課題
に取り組む学習

または

じぶん学習②

（自主学習）

自分の興味や関心
がある課題を追究
する学習（自由研究
的な学習）



★低学年は宿題中心

★中学年はじぶん学習（自主学習）を増やしていく

★高学年はじぶん学習（自主学習）中心



宿題は、教師が課題を示します。子供たちにとっては与えられた課題ですが、ドリルや漢字練習を機械的にこなすだけでなく、子供たちが主体的に宿題に取り組めるように工夫していきます。何のためにこの学習をおこなうのか理解できるように、めあてをもって取り組むことを促したり、宿題に選択肢を示し、子供たちが自分で選んで学習できるような取組をしたりしていきます。

じぶん学習（自主学習）は、勉強の内容や方法も自分で考えて行う学習です。じぶん学習（自主学習）は、①と②に分けて考えます。じぶん学習（自主学習）に取り組むことで、自分で課題を見つけ、追究する力が身に付きます。じぶん学習（自主学習）は、まさに「自らの学びをマネジメントする力」を育てる学習です。

家庭学習には「学力向上」という側面もあります。家庭学習を学力向上に効果的に結び付けるには、家庭学習と授業の内容をリンク（連動）させなければ、学力は十分高まりません。たとえば、授業で学習したことを、その日のうちに家庭で復習したり、間違った問題をもう一度解いてみたり、授業で学習したことをもっと詳しく調べてみたり、実際に使ってみたり等の家庭学習が求められます。



家庭学習の時間の目標とじぶん学習（自主学習）の内容（例）を以下に示していますので、参考にしてください。

家庭学習の時間・内容

▶ 家庭学習の時間の目標

低学年 20 分以上 中学年 40 分以上 高学年 60 分以上

▶ じぶん学習（自主学習）の内容（例）

<じぶん学習（自主学習）①>

- ★視写（教科書や好きな文章を書き写す）
- ★暗唱 ★教科書の予習、復習
- ★並行読書（授業で学習した読み物と関連する本を読む）
- ★漢字テスト練習 ★前に習った漢字練習
- ★計算練習 ★算数の発展問題にチャレンジ
- ★算数問題作り ★単元テスト勉強 ★単元テスト直し
- ★社会科新聞づくり ★歴史調べ
- ★社会科の授業で学習したことをノートにまとめる
- ★理科の実験手順調べ

<じぶん学習（自主学習）②>

- ★観察記録
- ★新聞スクラップまとめ（記事を切り抜き感想や意見を書く）
- ★日記を書く
- ★インターネットや図鑑を活用して、自分の興味や関心がある課題を追究する

